

# THE WEEKLY NEWS

2011～2012 年度  
国際ロータリー会長  
国際ロータリー  
第 2790 地区ガバナー  
第 5 分区ガバナー補佐

カルヤン・パネルジー

山田修平

釜田英之

## 鴨川ロータリークラブ

会長

佐藤信也

副会長

武田将次郎

幹事

羽鳥鋭一

クラブ広報委員長

脇坂保雄



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

今週のプログラム  
会員卓話

次週のプログラム  
PETS 報告

例会日 (火) 12:30～13:30 事務所 〒296-0001 鴨川市横渚 1524-6 TEL 04-7093-2001  
例会場 鴨川シーワールドホテル URL <http://www.kamogawa-rc.com>

## 例会報告 2012年3月13日

12:30

1. 点 鐘

会長 佐藤 信也

2. ローターソング斉唱

3. 会長挨拶

会長 佐藤 信也

4. 幹事報告

幹事 羽鳥 鋭一

5. 会員卓話

鈴木 敦

6. 出席報告

7. 点 鐘

13:30



### 会長あいさつ

会長 佐藤 信也

皆さん、こんにちは。

ずっとぐづついた天気が続き、約3週間振りの、晴天となりました。

朝起きてカーテンを開けたら、日差しが真横に入ってきました。

今までは斜めに壁面を照らしていたのに、それだけ日差しが無かった為、太陽の位置の違いが、新鮮に感じられました。

マグニチュード 9.0、最大震度 7、津波の高さは最大で 40m以上、お亡くなりになられた方は、約 16,000 人、行方不明者の方は 3,200 人以上、被害総額は 16 兆円～25 兆円と言われ、未だに瓦礫の撤去が進んでいない地域もあります。

この被害の大きさに、今更ながら驚愕するばかりであり、被災された方々には、あらためてお悔み申し上げたいと思います。

私ども鴨川SWも、政府の方針を受け入れ、当日は半旗を掲げ、14:46 には園内放送にて、黙祷の案内を行い、手空き従業員は無論の事、来園者の方々も黙祷を捧げました。

テレビ、新聞等の報道は、この大震災一色となっております。

目を背けたくなる場面も多々ありますが、数々の出来事が、その裏で起こっていた事が、顕わになってきました。

一早く出動した、自衛隊やアメリカ軍。困難な救援活動に、敢然と立ち向かっていく様は、その使命感に、心を打たれます。

雪が無い、寒くて冷たい泥の中を、素手で捜索活動を続ける、自衛隊員の姿、又、アメリカ軍は、言ってみれば他国の災害にも係わらず、人道的な見地から、危険を省みず、救援活動を行う姿、そして救援活動に一区切りが付き、退去していく際、そこの住民全てが、感謝の気持ちを込めて見送る姿は、感動しました。

一年が経ち、復興の槌音も徐々に聞こえてきました。壊滅した港も、何とか復旧し、操業を開始した漁港もありました。

又、仮設店舗とは言え、営業を再開した商店街もありました。

悲しんでばかりいられない。前に向かって進んで行こう。

もう一度、自分達の故郷を、再興しようという気構えが伝わってきました。

そして、何よりもテレビを見て、救われる思いがしたのが、子供達の笑顔でした。

様々な苦勞をしているのに、屈託の無い笑顔は、心を痛めると同時に、明日への希望に繋がる思いがしました。

私達日本人は、地震大国と言われるこの国土に、生活を続けていかななくてはなりません。この度の大震災の被害から、多くの事を学び、その対策に万全を期さなければ、ならないと思います。

敗戦にうちひがれた状態から、経済大国になった様に、又、産業経済が発展した事に伴い、発生した多くの公害を、自助努力によって改善し、自然環境を保全する気運に至った様に、そしてオイルショックから学び、世界の最先端に行く省エネ技術を生み出した様に、私達日本人は、数々の困難を乗り越えてきました。

今回もきっと乗り越え、災害に強い国家を作り上げると、信じて疑いません。その為には私達一人一人が、困難に立ち向かう勇気を持ち、互いに協力、協調していく事が、大切ではないかと思えます。

我々ロータリアンは、こういう時こそ、四つのテストに照らし合わせた言行を、より一層行っていくべきではないでしょうか。

「真実かどうか」正しい情報を正しく共有する、情報を隠蔽せず、デマに惑わされず、憶測で物を判断しない。

「みんなに公平か」自分だけ得をすれば良いものではない、誰かが犠牲になれば良いものでもない、痛みや喜びは皆で分かち合わなければならない。

「好意と友情を深めるか」今回のアメリカ軍の救援活動の様に、主義、主張、宗教や言語、習慣等違っても、同じ人間として相手を思いやる気持ちを持って行動すれば、必ずそこに好意と友情が芽生え、深まっていくと思えます。

「皆の為になるかどうか」自分の為だけに行動をしない、万人の平和が自分の喜びと感じられる姿勢を持つ。

私なりの解釈ではありますが。

今回の大震災は、今更ながら、自分を見つめ直す、良い機会だったと捉えるのが、後に繋がるのではないのでしょうか。

大変長くなりましたが、これにて会長挨拶とさせていただきます。

有難うございました。

## 幹事報告

幹事 羽鳥 鋭一



\* 広報・IT委員会より、お願いが届きました。RI広報補助金を、活用して、ロータリー活動を市民の方々に、ご理解いただく為、クラブの奉仕活動をご紹介くださいとの事です。

\* 亀田医療技術専門学校様より、会長へ、3月2日の、卒業証書授与式、臨席のお礼状が届いています。

\* 3月20日の例会は休会です。

\* 3月27日はユニバースホテルに例会場が変更となっています。

\* 鋸南ロータリークラブより

3月29日は館山・館山ベイ・鋸南の3クラブ合同花見夜間例会とします。

場所・・・勝山「なぎさ」



会員夫人誕生祝

ドリーム・カム・トゥルー



古市さんの後を受けて、日曜日と木曜日の房日新聞の「展望台」を書くことになり、来週で210回目となります。

本日は、このことについてお話したいと思います。

教員の頃、人材を育てるのはポストにつけるのが一番だと教わりました。

ポストに着くと、そのポストに求められるものをこなさなければならないから、ポストが人を育てるんだということです。

ここまで続けてこられたのは、最初週1回だったので、ある程度ゆとりがあったからだと思っています。

原稿は前日の9:30までに送らないとならないのですが、前日の「展望台」と同じ内容のものだと不味いので、前日の朝、確認してから送るようにしています。

内容が重複している場合は、すぐ差し替えの原稿を用意しなければならず、それがちょっと大変です。

それと、房州や鴨川のことを書かなければならないのですが、ネタを捜すのがさらに一苦労で、古市さんはよくネタがあったなといまさらながら感心致します。

その点、毎週この鴨川ロータリークラブの例会に来れば様々な業界トップの会員の皆さんから様々な情報をいただけるので、毎回楽しみにしております。

今後ともよろしく申し上げます。

### 事業の趣旨

鴨川ロータリークラブは地域貢献の一環として学校教育支援活動に取り組み、今年で8年を経過した。次世代を担う青少年たちが夢を持つ、明るく豊かな社会を実現するために、「私たち大人に何かできることはないだろうか？」との問いかけから、社会奉仕委員会が中心となって出前教室を実践してきたところである。会員たるロータリアンが職業人あるいは人生の先輩として、職業経験や事業の経営哲学、処世上の信念などについて講話をし、未来に向かってすすむ子どもたちに心の糧を与えることができればと念じている。

日時 3月9日(金) 1:40~2:25

対象 西条小学校6年生 20名

講師 土田育子会員(司会業 バレースタジオ経営)

内容 (進行 佐藤みさ子社会奉仕委員長)

1. 会長挨拶 佐藤信也会長  
ロータリークラブの奉仕の精神について  
講師の紹介

2. 講話

演題 「ドリーム・カム・トゥルー」

主人との出会いがあって、東京から鴨川にお嫁に来た。子どもが生まれてから司会業に出会い、きょうまで頑張ってきた。

司会業を始めるキッカケや独立するまでの修行の様子、時に間違えることがあっても、相手の立場に立って心をこめて対応することで、温かい交流が生まれて乗り切ってきた。司会業は心の修行でもある。

司会業はどんなに上手にできたと思っても、これでいいということがない。もっといいものをという欲が次から次にできて、経験を積めば積むほど夢が大き

くなる。そのような夢が持てるというのは、張り合いがあることで、充実した毎日です。みなさんも中学からその先と、夢を追える人間になって、頑張ってください。

以上の講話の後、司会業の基礎訓練である早口言葉の発音練習とアクセントの強弱をはっきりさせるための音読練習を全員に体験してもらった。子どもたちは興味を持って、真剣に取り組んでいた。

最後に、人生に向かって勇気ができるお話として、「おまえ うまそうだな」の読み聞かせを行った。しみじみとした、いい時間であった。

### 3. 生徒代表によるお礼の言葉



#### ◎ ニコニコBOX

氏名	メッセージ
羽鳥 鋭一	夫人誕生祝
鈴木 敦	卓話
島田 誠一	〃

#### ◎出席報告

例会日	会員	免除	出席	MU	出席率
3/13	31	2	12	9	72%
3/6	31	2	18	2	確定 64%